

検査結果のみかた

身長・標準体重の出しかた。
体重 身長(m)×身長(m)×22
(肥満度)・肥満度(%)=(体重－標準体重)÷標準体重×100
正常は、肥満度が±10%以内の人
境界は、肥満度が10%～20%の人
肥満は、肥満度が20%以上の人

BMI	
BMI＝	 体重(kg) <div>身長(m)×身長(m)</div>

	基準値
男	18.5～27.7
女	16.8～26.1

腹囲

	基準値
男	85cm
女	90cm

血圧

	基準値
収縮期血圧	88～147
拡張期血圧	51～94

心臓から押し出された血液が血管壁に作用する圧力のことを血圧といえます。収縮期(最高)血圧と拡張期(最低)血圧とがあり、その差は大体40mmHgです。血圧はたえず変動しているので本当に血圧が高いかどうかは何回か測定してみなければわかりませんしかし、何回測ってみても、最高が148mmHg又は最低が95mmHg以上の場合は高血圧だろうということになります。定期的な診察や検査が必要です。

検尿・便

検査名	正常値	コメント
尿検査	尿蛋白	(-) <p>主に腎臓の病気の発見に役立ちます。激しい運動後や過労時に一時的に増加することがあります。</p>
	尿糖	(-) <p>尿糖が陽性に出ると糖尿病が疑われますが、それ以外の病気でも陽性になることもあります。</p>
	ウロビリノーゲン	(正) <p>主に肝臓の病気を発見するのに役立ちます。正常でも陽性になること(過労・腸の状態の影響など)があります。</p>
	尿潜血	(-) <p>腎臓や尿管、膀胱など尿路系に炎症や結石などの異常のあるとき尿の中に赤血球が混じって潜血反応が出ます。(生理中は極めて高い確率で陽性になります。)</p>
便潜血(大腸ガン)	(-)	便潜血(+)は尿と同じように、目に見えない程度の血液が便に出ているということです。大腸の病気(潰瘍や癌、ポリープなど)病などでこの検査が陽性になります。

胸部レントゲン

肺結核、肺ガン、心拡大など多くのことをチェックします。タバコを吸う人は、吸わない人に比べて約10倍も肺ガンで死ぬ危険性があると警告されています。

喀痰検査

3日間連続して早朝痰をとり肺ガンチェックをします。

心電図

心臓の働き及び心筋の状態を調べます。心肥大の有無、不整脈の種類
の判定、心筋梗塞などの虚血性心疾患の有無を調べます。

血液検査

検査名	基準値	コメント		
貧血	白血球数	3500～9700/ul <p>炎症性の病気や過度のストレス、血液疾患などで増減します。</p>		
	赤血球数	男438～577×10 ⁴	貧血の有無がわかります。赤血球は肺からとりいれられた空気の酸素を体内に運ぶ役割をしています。ですからこれらが減ると、酸素不足の状態を作りだし、疲れ感や頭が重い、心臓がドキドキするなどの原因になります。これら三つの組み合わせからの性質を分類、治療に役立てます。ヘマトクリット基準値以上は多血症とよばれ血管がつまりやすくなります。	
		女376～516×10 ⁴		
	ヘモグロビン	男13.6～18.3 g/dl	出血したとき止血機能の役割をはたします。	
		女11.2～15.2 g/dl		
ヘマトクリット	男40.4～51.9 %	各白血球の割合を調べます。感染症、白血病、再生不良貧血などが原因で増減します。		
	女34.3～45.2 %			
白血球像	血小板	14.0～37.9×10 ⁴		
	Baso	0～2%		
	Eosino	0～7%		
	Neutro	42～74%		
	Lympho	18～50%		
Mono	1～8%			
脂質検査	総コレステロール	男	151～254	体内にある脂肪の一種です。多すぎると動脈硬化症など成人病の原因となります。高かった場合は更に善玉コレステロール(HDL),悪玉コレステロール(LDL)などを調べて診断することが必要です。
		女30～44才	145～238	
		女45～64才	163～273	
		女65～80才	175～280	
	HDLコレステロール	男	72～178	善玉コレステロールと呼ばれています。血管壁に付着した余分な脂肪分を取り除く働きをするからです。
女30～44才		61～152		
女45～64才		73～183		
女65～80才	84～190			
LDLコレステロール	70～139mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれています。数字が高いほど動脈硬化の危険性が高まります。		
中性脂肪(トリグリセライド)	50～149mg/dl	体内にある脂肪の一種です。使われなかったエネルギーは皮下脂肪として蓄えられますが、その大部分は中性脂肪です。この値が高くなりすぎると動脈硬化や糖尿病を進行させます。		
糖尿	血糖	空腹時 <p>70～109mg/dl</p>	ブドウ糖の調節をしているインシュリンの機能が低下し血糖値が上昇します。食後でも200mg/dl以上なら可能性が高いです。精密検査を受けましょう。	
	HbA1c(NGSP)	4.6～6.2%	血液中のブドウ糖が赤血球内のヘモグロビンと結合したものを調べる検査で過去1～2ヶ月の血糖の平均値を推測するものです。%で表現されます。	
肝機能	総蛋白	6.5～8.2 g/dl	血液中のたんぱく質を調べたもので、栄養状態や、腎臓や肝臓の機能を調べることができます。	
	アルブミン	3.7～5.5 g/l	肝細胞だけで産出されるタンパク質で、肝疾患、栄養障害などで低下します。	
	総ビリルビン	0.3～1.2 mg/dl	赤血球中のヘモグロビンが肝臓で処理されてできる黄色い色素で胆汁に多く含まれます。肝臓や胆嚢に障害があると高くなりますが特に病気 なくても体質的にビリルビンが高い人もいます。	
	直接ビリルビン	0～0.4 mg/dl	ヘモグロビンが肝臓で処理れて出来たものを間接ビリルビンといい、それが肝臓で水溶性に変化したものを直接ビリルビンといいます。これらのビリルビンの量の違いから黄疸の原因を調べることが出来ます。	
	GOT	10～40 U/l	主として肝臓の細胞の中にあるアミノ酸をつくる酵素です。肝臓の細胞の変性や壊死に反応するので肝臓、胆道系の診断には欠かせない検査です。	
	GPT	5～45 U/l		
	γ-GTP	男 79U/l以下 <p>女 48U/l以下</p>	多くの内臓に含まれる蛋白分解酵素です。アルコールや薬剤などが肝細胞を破壊したときに他の酵素より早く異常値をだします。脂肪肝でも高くなります。	
A L P	104～338 U/l	体のほとんど全ての臓器や組織に含まれているリン酸化合物を分解する酵素です。腎臓、小腸、肝臓、骨などの臓器異常があるときに高値になります。		
L D H	120～245 U/l	酵素の一つで、あらゆる細胞の中に含まれています。特に心筋、肝臓、骨格筋に多く含まれています。運動や軽作業によっても上昇します。これだけでは病気の特定はできないので他の検査も併せて総合的に検査します。		
L A P	30～78 U/l	酵素の一つで、肝臓や膵臓、胆道などに多く含まれています。他の検査と併せて肝臓や胆道の検査として用いられます。		
コリンエステラーゼ	男 245～495U/l <p>女 198～452U/l</p>	肝臓で作られる酵素のひとつです。他の検査より早く異常があらわれるので肝臓の障害をいち早くキャッチする検査として用いられています。特に現代人に多い脂肪肝の時に高くなります。		

血液検査

検査名	基準値	コメント	
痛風	尿酸	男 3.6～7.0mg/dl <p>女 2.7～7.0mg/dl</p>	体内の新陳代謝の結果、その老廃物として作られたものです。肉類などを片寄って食べたり、糖分やアルコールの取り過ぎや激しい運動を続けたとき、ストレスが一定量以上になったときなど新陳代謝によって尿酸が多く作りだされます。この尿酸がうまく尿に流れてゆかなくなって関節にたまって、激しく痛む病気が痛風です。
	腎機能	B U N(尿素窒素)	8～20mg/dl
クレアチニン		男0.65～1.09mg/dl <p>女0.46～0.82mg/dl</p>	
膵	血清アミラーゼ	39～134U/l	急性膵炎などの膵臓の病気や、腎不全、肝炎などがわかります。
貧血	血清鉄	男:60～210 <p>女:50～170</p>	血液中の鉄の量を測定する検査です。
	鉄結合能	男:250～410 <p>女:250～460</p>	鉄代謝に以上をきたす疾患や病体の変化を反映します。
炎症反応	C R P	0.30以下 mg/dl	炎症や組織破壊で増えるタンパク質の一種です。
	A S O	244以下 IU/ml	血液中のASOが高いということは溶血性連鎖球菌に感染している可能性が高いことを表しています。
	R A	10以下 U/ml	通常の血液中には存在しないリウマチ因子の有無を調べる検査です。
肝炎	HBs抗原	(-)	これが(+)のときはB型肝炎ウイルスがあるということです。しかしウイルスの反応があるからといって肝炎が発病しているとは限りません。むしろ発病していない場合が多いので(+)の方は、医師に相談して下さい
	HCV抗体	(-)	C型肝炎ウイルスの感染の有無を調べる検査です。現在体内にウイルスがない場合でも陽性になることもあります。
心筋	CPK	男50～230U/l <p>女50～210U/l</p>	主に心筋障害の指標として重要な検査であり、緊急検査項目に含まれています。
電解質	ナトリウム	135～145 mEq/l	水分調整や浸透圧に関わり、バランスが大きく崩れると意識障害を引き起こすことがあります。脱水などで高い値となります。
	カリウム	3.5～5.0 mEq/l	酸塩基平衡や浸透圧の維持、筋肉や神経系に深く関わる主要電解質です。
	クロール	98～108 mEq/l	血液の浸透圧や酸塩基平衡の維持に関わっています。
	カルシウム	8.6～10.2 mg/dl	少しの変動でも症状が出現し、内分泌疾患・腎疾患・骨代謝障害などが疑われます。
	リン	2.5～4.5mg/dl	生体内での糖代謝、エネルギー代謝に必須です。異常高値は甲状腺機能低下症、腎不全などが見られ、異常低値はビタミンD欠乏などが疑われます。

腹部エコー

超音波検査で、肝臓、腎臓、膵臓、胆嚢等の異常を見つけます。

眼底検査

瞳孔から眼球の奥を覗いて網膜を観察するのが眼底検査です。眼底の血管は、身体の外から見ることでできる唯一の血管で、この検査で網膜の病気のほか、高血圧、糖尿病動脈硬化など、多くの病気に関する情報を得る事ができます。

肺機能検査

静かにしている状態での肺内のガス容量を肺活量といい、これを実測したものが努力性肺活量です。さらに、実測時に吐き出した最初の1秒管の呼気量は1秒量と呼ばれ、その量が努力性肺活量の何%に当たるかを示したものが1秒率